



アグラオニケ

ギリシャ出身の初期の天文学者。アグラオニケは、月食がいつ、どこで起こるかを予測することに非常に長けていた。彼女の能力は、おそらくメトン周期（月の満ち欠けが1年のうち同じ時期に起こる約19年の周期）を研究した結果であろう。天文知識を駆使して、まるで月を空から「消して」いるかのように見えることから、彼女を魔女と考える人も少なくなかった。



アグラオニケ

紀元前 1,2 世紀



ギリシャの新プラトン主義の哲学者、天文学者、数学者。ヒュパティアは、当時最も偉大な思想家、数学者、天文学者の一人として認められていた。彼女の父親は著名な学校の校長であり、天文学者、数学者としても知られていた。ヒュパティアは、アポロニウスやディオファントスの著作を基礎に、天測暦<sup>?</sup>を改訂するなど、これらの分野で貢献した。彼女は有名な教師であり、講演家であり、多くの聴衆が彼女の講演を聴きにきた。ヒュパティアは無残にも殺害され、非業の最期を遂げた。



355年 - 415年



新羅の善徳女王は、朝鮮三国時代の一国である新羅の第27代統治者として君臨した女王である。彼女の政策と投資によって、天文学だけでなく、他の科学分野や文化も大きく発展した時代であった。善徳女王は在位中、瞻星台(せんせいだい)を建設した。高さ9mのこの天文台は、現在もなお、アジアで最も古い天文台である。



新羅の善徳女王

595年 - 647年



マリyam・アル＝asturabiは現在の北シリアにあるアレップの現在の北シリアにあるアレップの天文学者であり、アストラーベ(太陽、月、星などの天体の運動を予測するために使用される古代の天文機器)の製作者であった。父は別のアストラーベ製作者であり、その娘であるマリyamは、アストラーベの設計と製作をマスターし、精密な計算と正確な予測を可能にする機器を製作した。彼女はシリアのアレップの初代首長サイフ・アルダウラに雇われて、これらの機器を製作した彼女の父は。



マリアム・アル=アストウルラビ

10 世紀



ソフィア・ブラーエ

デンマークの科学者、作家で、天文学、園芸学、化学、医学の分野で活躍した。ソフィア・ブラーエは、貴族の家に生まれたソフィア・ブラーエは、著名な天文学者ティコ・ブラーエの妹である。彼女は兄の天体観測をよく手伝い、その成果はティコの惑星軌道理論の発展に貢献した。また、彗星や日食の観測も独自に行った。



ソフィア・ブラーエ

1559年 - 1643年



カロライン・ハーシェル

ドイツに生まれたカロライン・ハーシェルは、女性初の職業的天文学者と考えられている。彼女はいくつかの彗星、散開星団、14の星雲を発見した。兄のサー・ウィリアム・ハーシェルと密接に協力し、天文機器の製作、星表作成、計算などを手伝った。兄の助手として、イギリス国王ジョージ3世から給与を受け授与っていた。1828年、王立天文学会から金メダルが授与された。



カロライン・ハーシェル

1750年 - 1848年



中国の天文学者、数学者、詩人、高名な学者。春分・秋分月食・日食の関係についての論文を執筆。太陽、月、地球の動きを研究し、その理論を証明するために革新的なや他の作品の実験を展開した。詩人としても活躍し、13冊の詩集、と他者のための序文、後書きを遺した。



王貞儀 (おうていぎ)

1768年 - 1797年



カテリーナ・スカルペリーニ

カテリーナ・スカルペリーニは、イタリアの天文学者であり気象学者である。ローマ大学・サピエンツァ天文台で叔父の助手として働く。夫とともに、天文台や他の研究機関の科学的発見を掲載する機関誌「コリスポンデンツァ・サイエンティフィカ」を創刊し、編集長を務めた。ローマに气象台設立した。



カテリーナ・スカルペリーニ

1808年 - 1873年



ヘンリエッタ・スワン・リービット

ヘンリエッタ・スワン・リービットは、アメリカの天文学者で、星の明るさを測定し、分類する「計算手」としてハーバード大学天文台に勤務していた。裕福な家庭に育ったため、まずはボランティアとしてハーバード大学のチームに参加した。彼女は、ある時間内に一定の時間で明るくなったり暗くなったりする星、ケフェイド変光星の光度と周期の関係を発見した。彼女の計測法を知る、天文学者に最初の「標準光源」（星の光度と距離を知ることで銀河の距離を測る方法）をもたらした。ヘンリエッタ・スワン・リービットの研究を基に、エドウィン・ハッブルは天の川銀河の外に他の銀河が存在することを証明した。



ヘンリエッタ・スワン・リービット

1868年 - 1921年



セシリア・ペイン＝ガポーシュキン

セシリア・ペイン＝ガポシュキンは、イギリスの上流階級の家庭に生まれ、アメリカを拠点に活躍した天文学反転層である。彼女の画期的な博士論文は、「恒星大気の高温の逆転層の観測的研究への貢献」というタイトルで1925年に発表された。この論文で、セシリア・ペイン＝シガユポキンは、星が主に水素とヘリウムで構成されているという、当時の科学的コンセンサスを覆す考えを示しただけでなく、星がその温度によって分類できることを示したのである。さらに、変光星の性質に関する研究は、これらの天体の理解の基礎を築いた現在に至る。



1900年 - 1979年



パリス・ピシュミシュはアルメニア系メキシコ人の天文学者で、イスタンブール大学理学部で博士号を取得した最初の女性であり、メキシコで最初の職業的天文学者であるなど、まさに「最初」を体現した人である。また、測光を用い若い星団の研究を行った最初の天文学者の一人でもある。銀河構造の研究では、20以上の散開星団と2つの球状星団の分類を行った。100以上の論文を発表した。



パリス ピシュミシュ

1911年 - 1999年



ルビー・ヴァイオレット・ペイン=スコット

オーストラリアで生まれたルビー・ヴァイオレット・ペインスコットは、電波天文学のパイオニアであり、同国初の女性電波天文学者である。特に太陽表面の黒点(暗く見える部分)に関連する太陽電波雑音に焦点をあて研究した。彼女の研究は、太陽表面での新しいタイプの爆発現象である太陽コロナからのエネルギー放出の発見の中心となり、電波天文学の数学的研究の基礎を築いた。ジョー・ポーシー、リンゼイ・マクレディとともに、黒点と太陽からの電波放射の増加との関係を証明した。



ルビー・ヴァイオレット・ペイン＝スコット

1912年-1981年



ベラ・ルービン

この革新的なアメリカの天文学者の研究によって、ダークマターの存在が確認された。ベラ・ルービンは、銀河の力学に焦点を当てた研究を行い、銀河の合体に関する最初の証拠のいくつかを提供した。先進的な分光器（光を波長成分に分解する装置）を開発した天文学者ケント・フォードと共同で、アンドロメダ銀河の中心部と周辺部の星が同じ速度で回転していることを発見したのだ。この事実は、高速で移動する外縁部の星を軌道上で「保持」している物質の存在を示唆するものであった。彼女の観測は、宇宙には目に見えない質量、すなわちダークマターが存在することを突き止めたのである。ニューヨーク・タイムズ紙は、彼女の功績を、宇宙論に「コペルニクス 転回 的規模の変化をもたらす」と評した。



ベラ・ルービン

1928年 - 2016年



北アイルランド生まれのジョスリン・ベル・バーネルは、パルサー（太陽より重い質量を持ち、光を放つが恒星ではない天体）の存在を発見した。彼女はケンブリッジ大学で博士課程に在籍中、パルサーの存在を発見した。彼女の発見にもかかわらず、ジョスリン・ベル・バーネルの指導教官は彼女の功績により多くを得、バーネルの発見に基づいてノーベル賞まで授与された。彼女は研究者、講師として卓越したキャリアを持ち、王立天文学会や物理学会の会長も務めた。



ジョスリン・ベル・バーネル

1943年 -



メイ・ジェミソン

アメリカの医学博士、宇宙飛行士。宇宙飛行士になる前は、平和部隊に所属し、シエラレオネとリベリアで医務官として活躍。黒人女性初の宇宙飛行士として知られる。エンデバー号でミッションスペシャリストを務め、約8日間にわたり地球を周回した。NASAでのキャリアを経て、さまざまな企業や、STEM教育と持続可能性に取り組む非営利団体「ドロシー・ジェミソン・ファウンデーション・フォー・エクセレンス」を設立。米国医師会、米国化学会、宇宙探検家協会、米国科学振興協会など、さまざまな科学団体のメンバーでもある。



メイ・ジェミソン

1956年 -



プエルトリコに生まれたワンダ・ディアス=メルセドは 20 代前半に変性糖尿病性網膜症の合併症で視力を失った。しかし、天文分野でのキャリアを断念することなく、視覚に頼らずに恒星電波を研究する新たな方法を見出した。ワンダは、視覚や図形表示ではらない恒星電波データはのっパキタリーとン分をか、耳を使って検出できることに気づいた。ワンダは、大規模な天文学的データセットを音に変換する可聴化(ソノフィケーション)の活用で最もよく知られている。ワンダ・ディアス=メルセドは、可聴化(ソノフィケーション)を天文業界で活用するための助言と実験に貢献した



ワンダ・ディアス＝メルセド

1982年 -



小山ひさ子

小山ひさ子は、日本の天文学者である。若いころ、流星に興味を抱いたことから天文学を学び始めた。50年間にわたり太陽黒点の観測と記録を続け、その集積は太陽の活動周期や長期の変動に関する研究に貢献している。彼女の功績は近年になって再評価され、さまざまな書籍などでも紹介されている。著書などでは「小山ヒサ子」の表記もみられる。



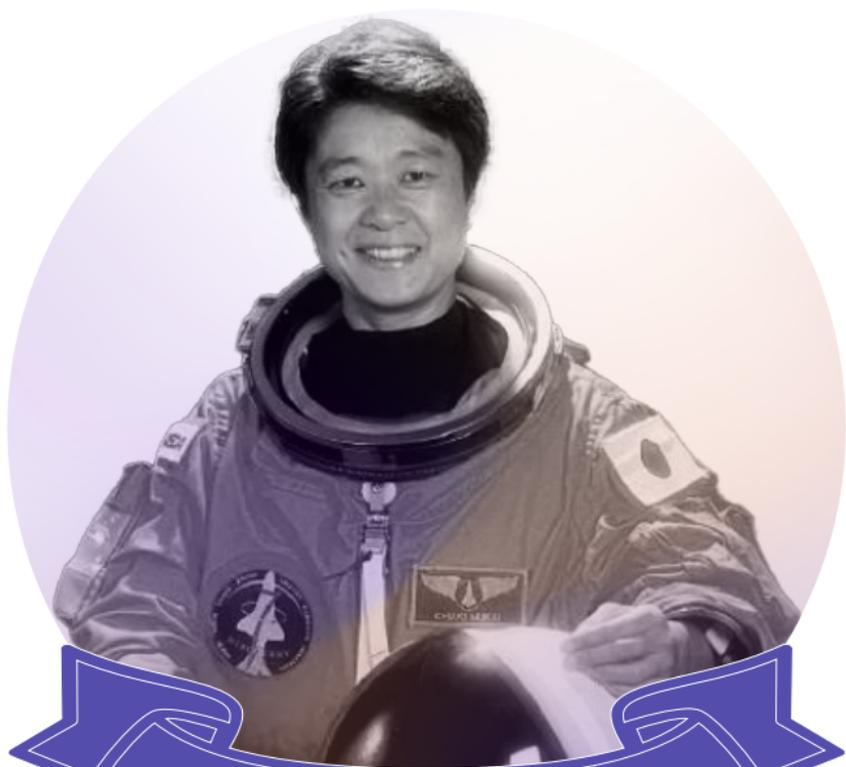
小山ひさ子

1916年 - 1997年



向井千秋

向井千秋は、日本人初の女性宇宙飛行士であり医学博士。彼女はスペースシャトル コロンビアとスペースシャトル ディスカバリーに搭乗した。東京理科大学スペースコロニー研究センター（野田キャンパス）の特任副学長兼センター長を務めた。国際宇宙大学客員教授、宇宙航空研究開発機構特別顧問、宇宙医学研究センター所長、日本学術会議副会長などを歴任。



向井千秋

1952年 -



山崎直子

山崎直子は千葉県松戸市で生まれました。彼女は航空宇宙工学の学士号と修士号を取得しました。いくつかのプロジェクトに従事した後、山崎は日本の宇宙飛行士で2人目の女性であり、最後の日本の宇宙飛行士としてスペースシャトルに搭乗しました。彼女はスペースポートジャパン協会の共同創設者の一人であり、ヤングアストロノートクラブの会長および日本ロケット協会のウィメンインエアロスペースプログラムの議長です。



山崎直子

1970年 -